

第3回 リニア駅周辺整備デザイン会議 次第

平成30年6月11日（月）午後2時～
飯田市役所C311・312・313号会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 設計プランの検討

- | | |
|----------------------|-----|
| ①平面計画案の概要について | 資料1 |
| ②交通計画について | 資料2 |
| ③第2回市民ワークショップの報告について | 資料3 |
| ④交通と広場の共存の考え方について | 資料4 |

(2) デザインノートについて

資料5

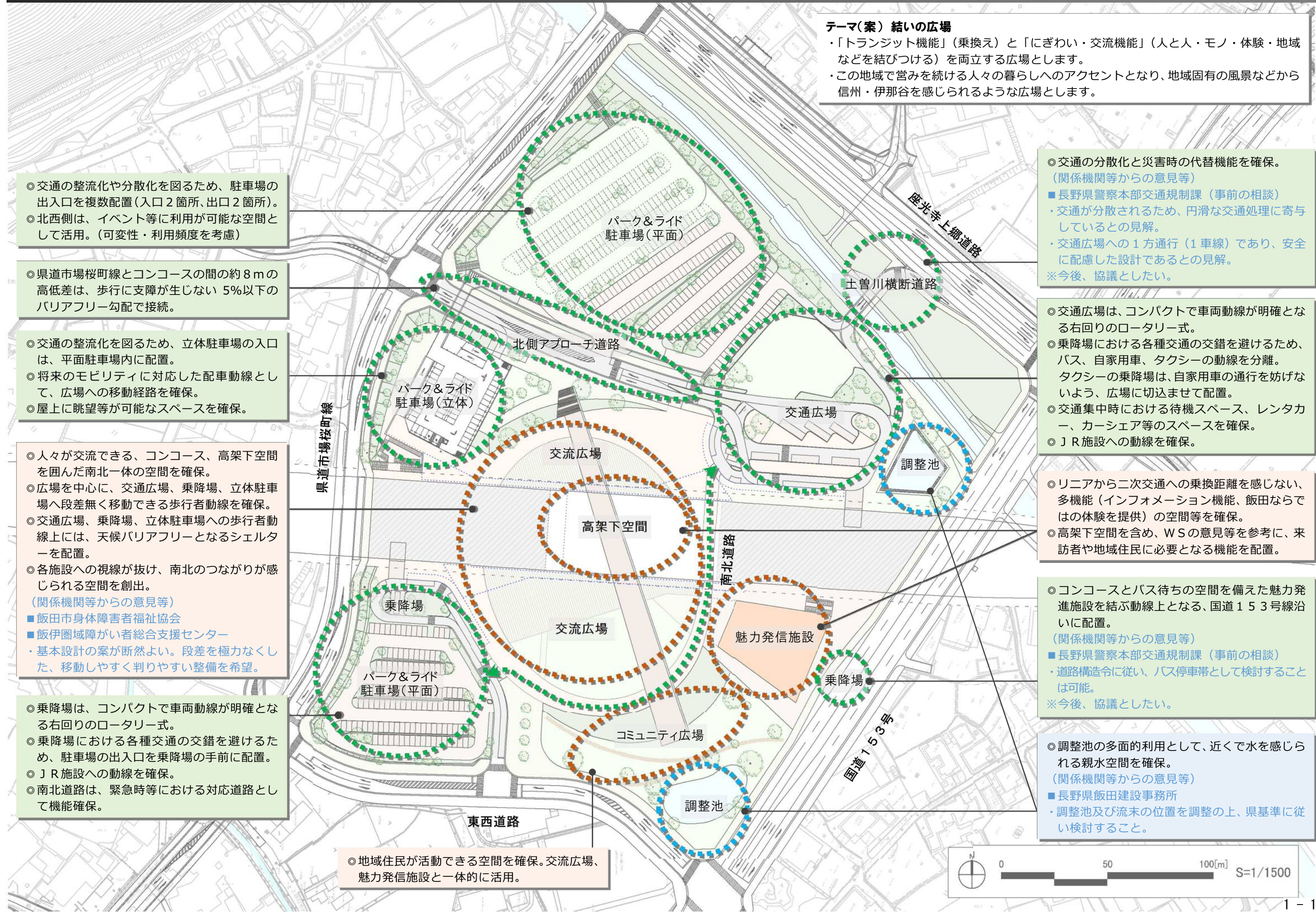
(参考資料)

- | | |
|----------------------------|-------|
| ・第2回リニア駅周辺整備デザイン会議における意見対応 | 参考資料1 |
| ・第2回リニア駅周辺整備デザイン会議以降の経過報告 | 参考資料2 |
| ・造成高（北側）に関する資料 | 参考資料3 |

4 その他

- ・第4回デザイン会議の予定

5 閉 会



テーマ(案) 結いの広場

- ・「トランジット機能」(乗換え)と「にぎわい・交流機能」(人と人・モノ・体験・地域などを結びつける)を両立する広場とします。
- ・この地域で営み続ける人々の暮らしへのアクセントとなり、地域固有の風景などから信州・伊那谷を感じられるような広場とします。

◎交通の整流化や分散化を図るため、駐車場の出入口を複数配置(入口2箇所、出口2箇所)。
 ◎北西側は、イベント等に利用が可能な空間として活用。(可変性・利用頻度を考慮)

◎県道市場桜町線とコンコースの間の約8mの高低差は、歩行に支障が生じない5%以下のバリアフリー勾配で接続。

◎交通の整流化を図るため、立体駐車場の入口は、平面駐車場内に配置。
 ◎将来のモビリティに対応した配車動線として、広場への移動経路を確保。
 ◎屋上に眺望等が可能なスペースを確保。

◎人々が交流できる、コンコース、高架下空間を囲んだ南北一体の空間を確保。
 ◎広場を中心に、交通広場、乗降場、立体駐車場へ段差無く移動できる歩行者動線を確保。
 ◎交通広場、乗降場、立体駐車場への歩行者動線上には、天候バリアフリーとなるシェルターを配置。
 ◎各施設への視線が抜け、南北のつながりが感じられる空間を創出。
 (関係機関等からの意見等)
 ■飯田市身体障害者福祉協会
 ■飯伊圏域障がい者総合支援センター
 ・基本設計の案が断然よい。段差を極力なくした、移動しやすく判りやすい整備を希望。

◎乗降場は、コンパクトで車両動線が明確となる右回りのロータリー式。
 ◎乗降場における各種交通の交錯を避けるため、駐車場の出入口を乗降場の手前に配置。
 ◎JR施設への動線を確保。
 ◎南北道路は、緊急時等における対応道路として機能確保。

◎地域住民が活動できる空間を確保。交流広場、魅力発信施設と一体的に活用。

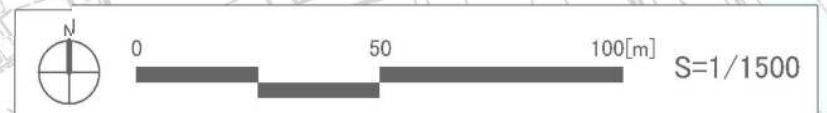
◎交通の分散化と災害時の代替機能を確保。(関係機関等からの意見等)
 ■長野県警察本部交通規制課(事前の相談)
 ・交通が分散されるため、円滑な交通処理に寄与しているとの見解。
 ・交通広場への1方通行(1車線)であり、安全に配慮した設計であるとの見解。
 ※今後、協議としたい。

◎交通広場は、コンパクトで車両動線が明確となる右回りのロータリー式。
 ◎乗降場における各種交通の交錯を避けるため、バス、自家用車、タクシーの動線を分離。タクシーの乗降場は、自家用車の通行を妨げないように、広場に切込ませて配置。
 ◎交通集中時における待機スペース、レンタカー、カーシェア等のスペースを確保。
 ◎JR施設への動線を確保。

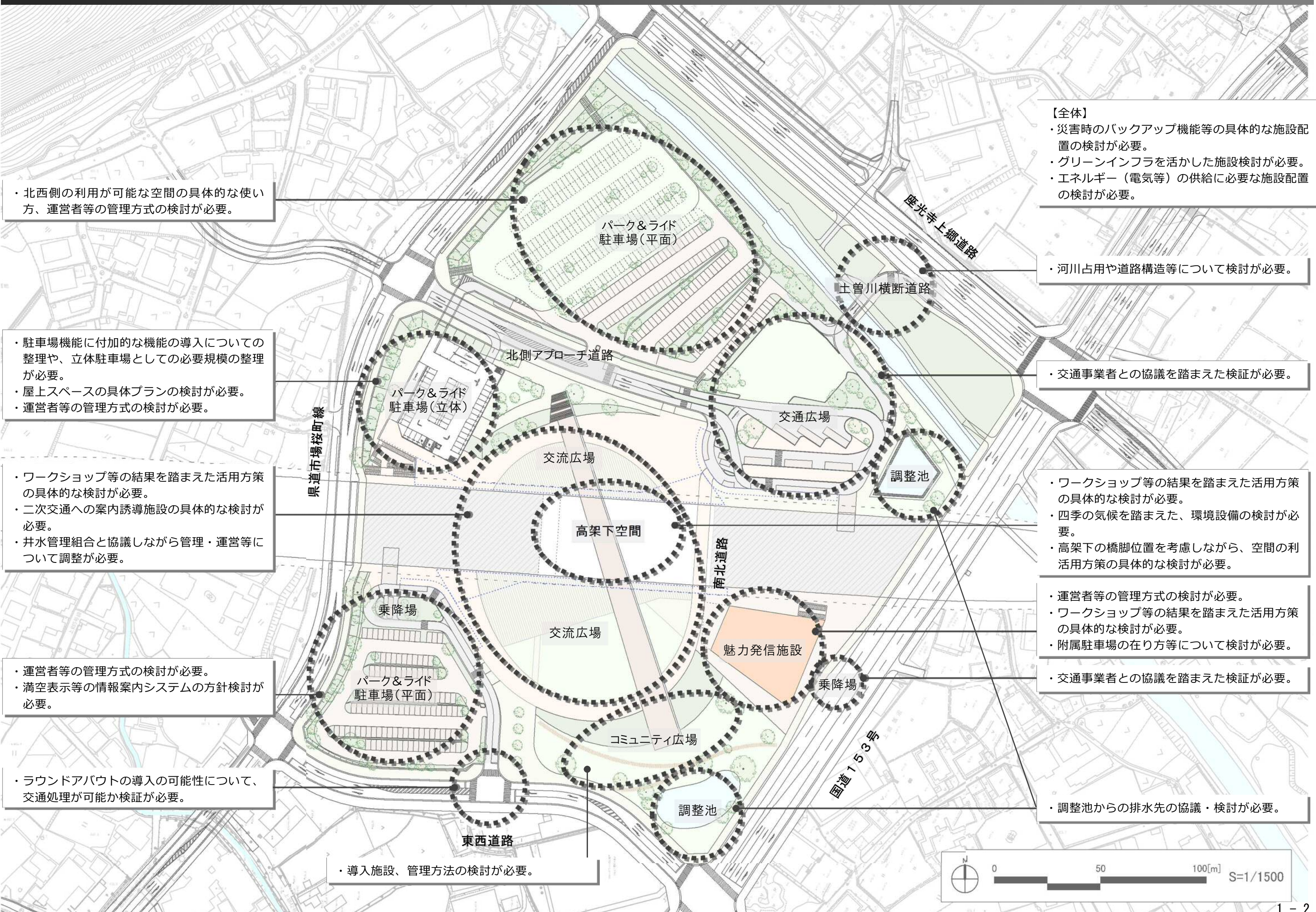
◎リニアから二次交通への乗換距離を感じない、多機能(インフォメーション機能、飯田ならではの体験を提供)の空間等を確保。
 ◎高架下空間を含め、WSの意見等を参考に、来訪者や地域住民に必要な機能等を配置。

◎コンコースとバス待ちの空間を備えた魅力発信施設を結ぶ動線上となる、国道153号線沿いに配置。
 (関係機関等からの意見等)
 ■長野県警察本部交通規制課(事前の相談)
 ・道路構造令に従い、バス停車帯として検討することは可能。
 ※今後、協議としたい。

◎調整池の多面的利用として、近くで水を感じられる親水空間を確保。(関係機関等からの意見等)
 ■長野県飯田建設事務所
 ・調整池及び流末の位置を調整の上、県基準に従い検討すること。



継続的に検討が必要な課題等



・北西側の利用が可能な空間の具体的な使い方、運営者等の管理方式の検討が必要。

・駐車場機能に付加的な機能の導入についての整理や、立体駐車場としての必要規模の整理が必要。
 ・屋上スペースの具体プランの検討が必要。
 ・運営者等の管理方式の検討が必要。

・ワークショップ等の結果を踏まえた活用方策の具体的な検討が必要。
 ・二次交通への案内誘導施設の具体的な検討が必要。
 ・井水管理組合と協議しながら管理・運営等について調整が必要。

・運営者等の管理方式の検討が必要。
 ・満空表示等の情報案内システムの方針検討が必要。

・ラウンドアバウトの導入の可能性について、交通処理が可能か検証が必要。

・導入施設、管理方法の検討が必要。

【全体】
 ・災害時のバックアップ機能等の具体的な施設配置の検討が必要。
 ・グリーンインフラを活かした施設検討が必要。
 ・エネルギー（電気等）の供給に必要な施設配置の検討が必要。

・河川占用や道路構造等について検討が必要。

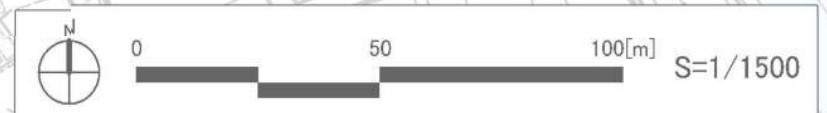
・交通事業者との協議を踏まえた検証が必要。

・ワークショップ等の結果を踏まえた活用方策の具体的な検討が必要。
 ・四季の気候を踏まえた、環境設備の検討が必要。
 ・高架下の橋脚位置を考慮しながら、空間の利活用方策の具体的な検討が必要。

・運営者等の管理方式の検討が必要。
 ・ワークショップ等の結果を踏まえた活用方策の具体的な検討が必要。
 ・附属駐車場の在り方等について検討が必要。

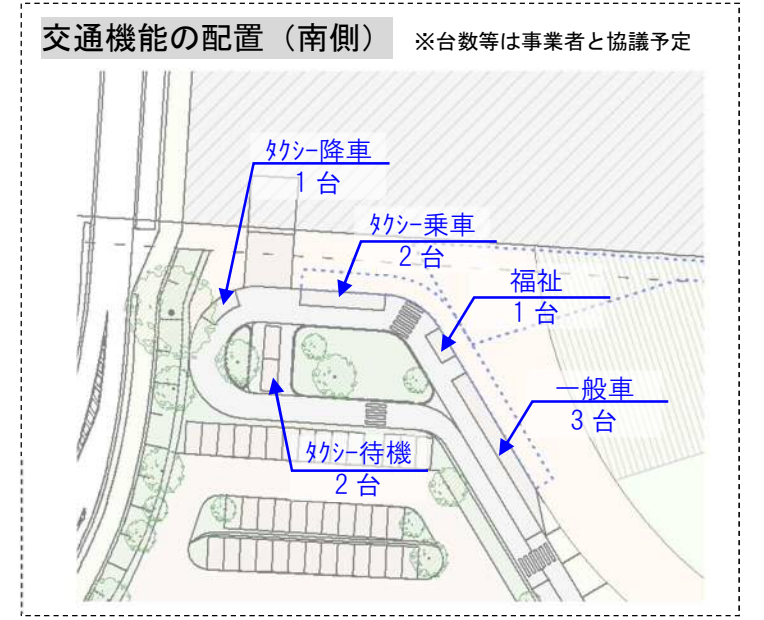
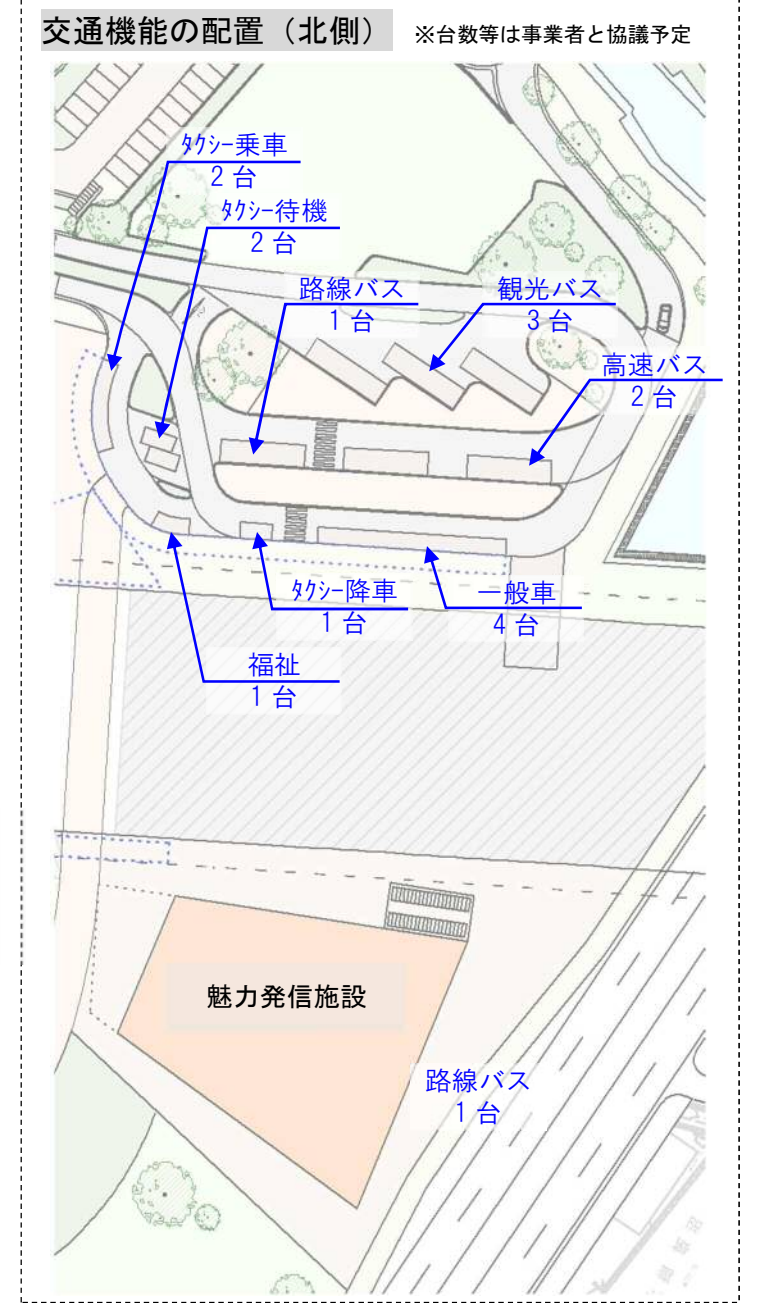
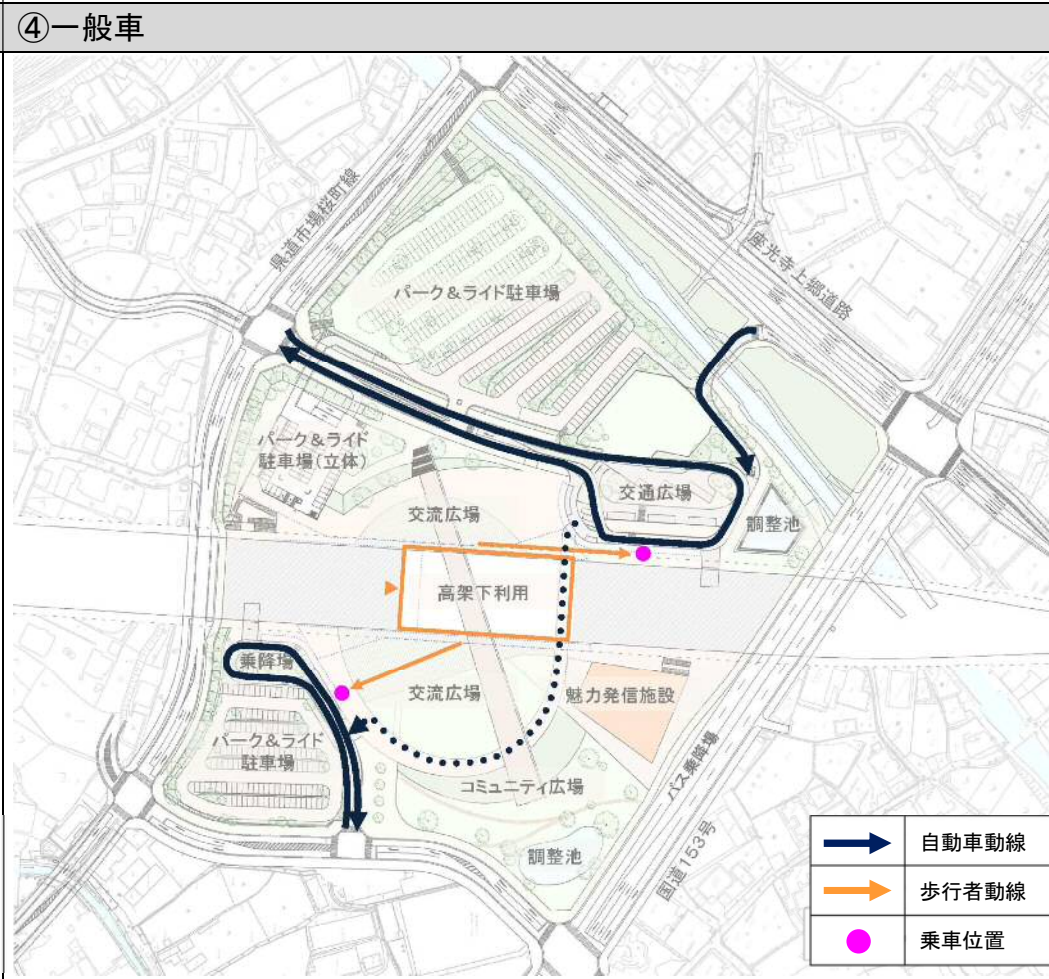
・交通事業者との協議を踏まえた検証が必要。

・調整池からの排水先の協議・検討が必要。



交通計画

交通分担別の経路



参考：駐車場へのアクセス

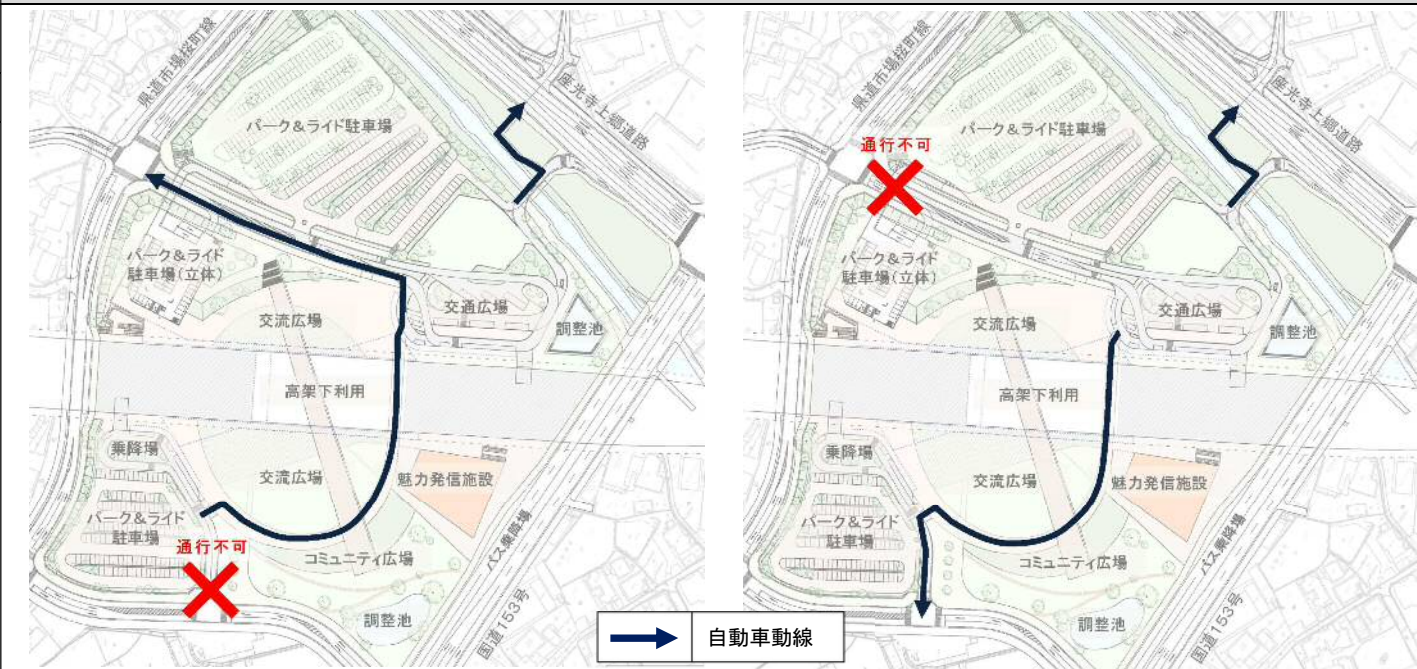
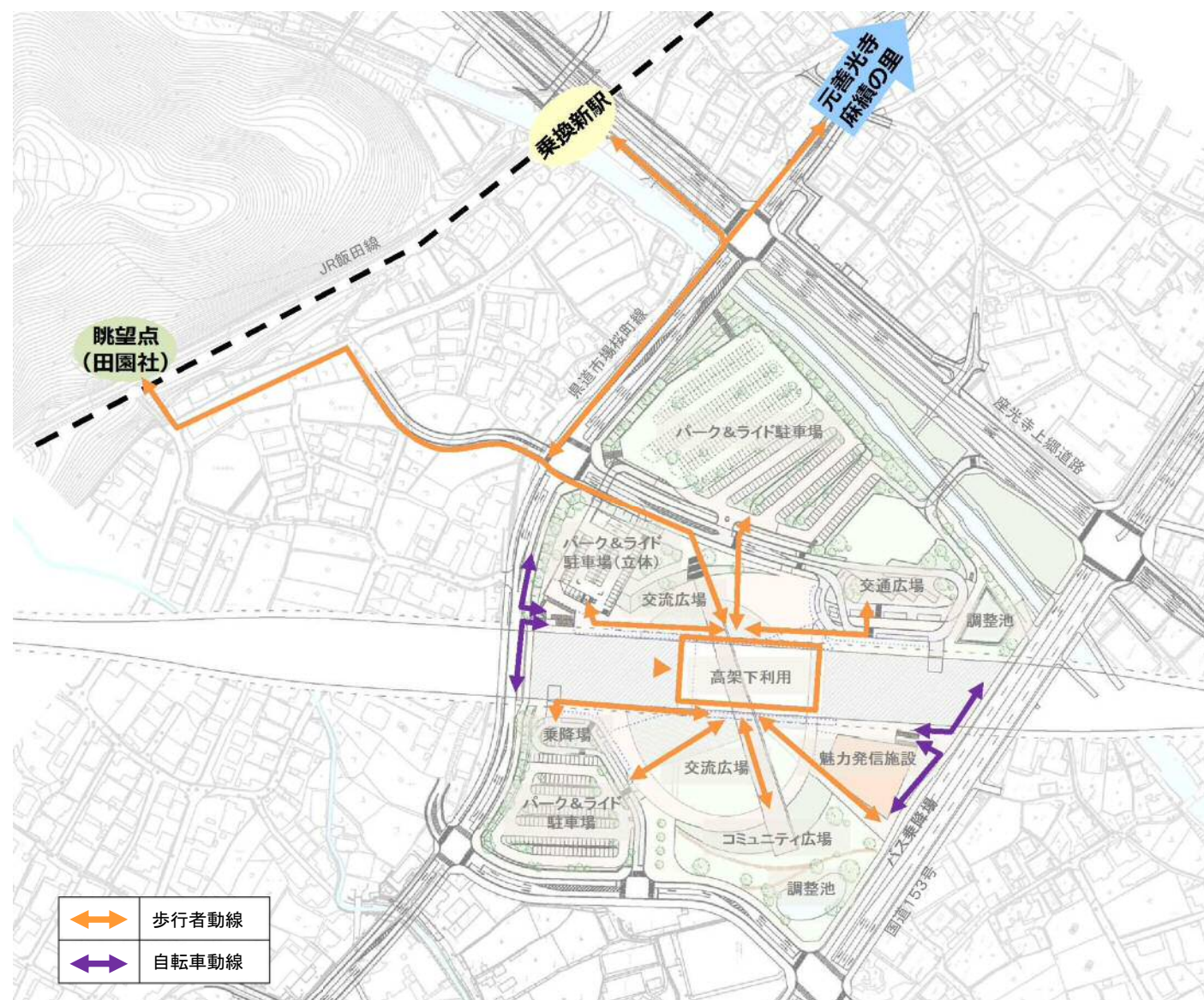


参考：将来の交通手段の変化への対応（自動運転・小型モビリティなど）



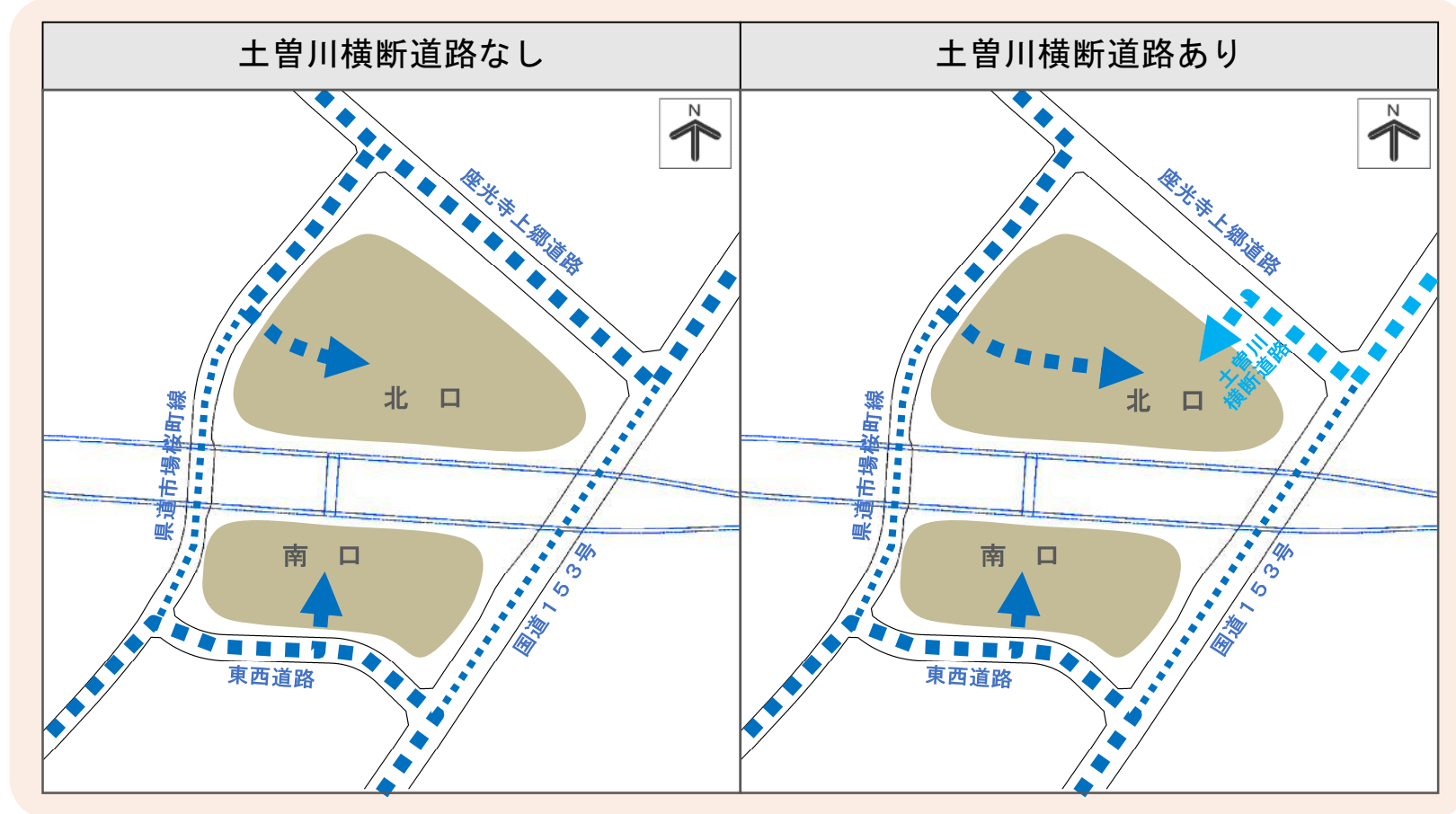
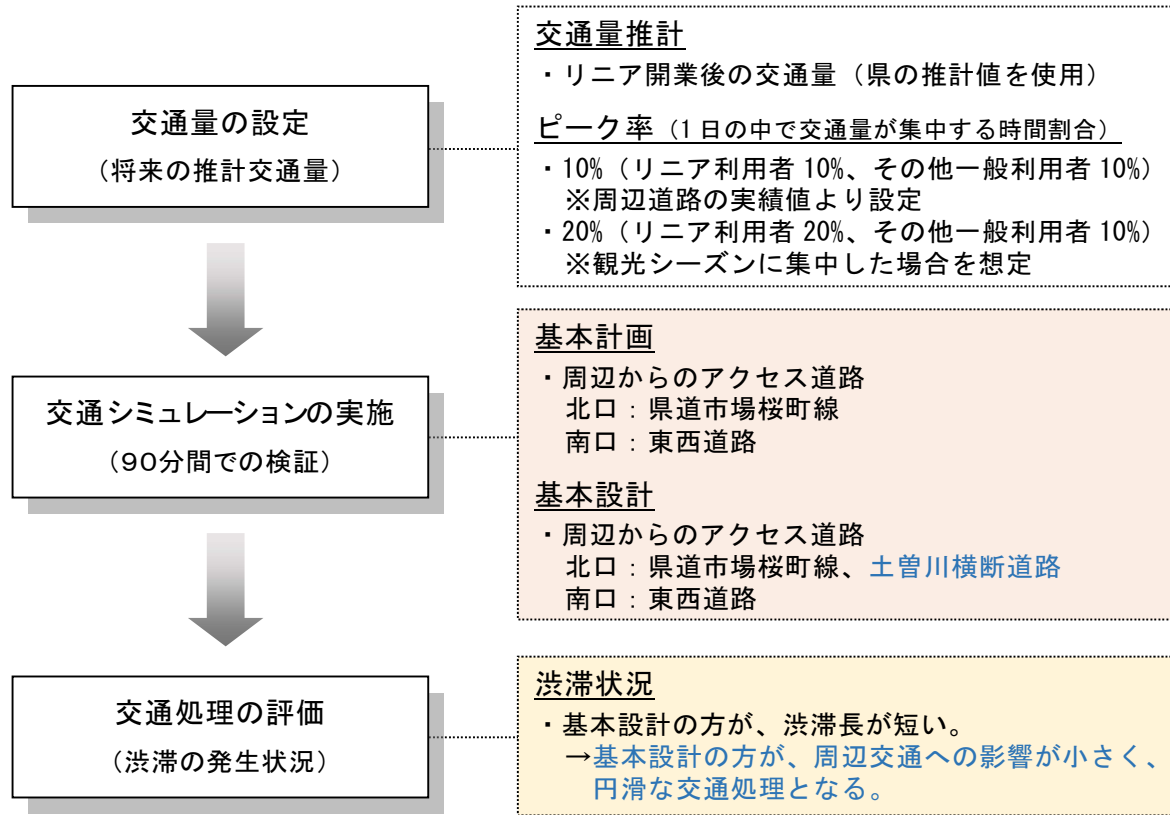
⑤ 歩行者・自転車

参考：緊急時（経路が絶たれた場合）の対応



参考：イベント時などの対応





ピーク率：10%（リニア利用者10%、その他10%）

交差点①

交差点全方向の集計

約250m減少
3.5%減

交差点②

渋滞なし

ピーク率：20%（リニア利用者20%、その他10%）

交差点①

交差点全方向の集計

約70m減少
1.5%減

交差点全方向の集計

約160m減少
5%減

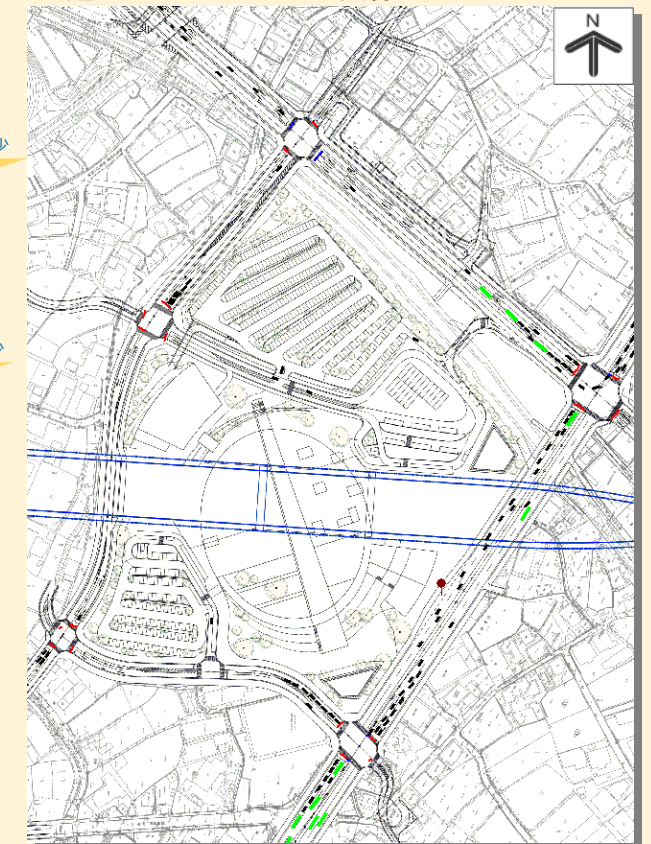
交差点全方向の集計

6m減少
1.5%減

交差点全方向の集計

約100m減少
6.5%減

交通シミュレーション画像



使用ソフト：トラフィックス（日立産業制御ソリューションズ）

リニア駅周辺整備 ワークショップだより

平成30年6月発行 vol.2

●第2回リニア駅ワークショップを開催しました！

5月16日に第2回目となる「リニア駅周辺整備に関するワークショップ」を開催しました。当日は初参加の方、高校生を含む、総勢30名にご参加いただきました。

今回のワークショップでは、「リニア駅前空間の使い方・過ごし方」について、参加者から出された多種多様なアイデアをもとに議論が展開されました。

- 開催実績**
- ◆日時：平成30年5月16日（水）
18:30～21:00
 - ◆会場：飯田市役所
 - ◆参加者数：30名（初参加7名、高校生4名）



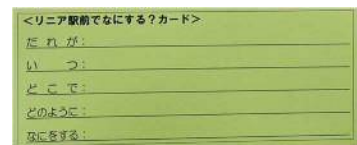
■意見交換の様子

●ワークショップで出された主な意見

将来のリニア駅周辺をイメージしながら、どんな人たちがどのように使える空間・過ごせる空間になるとよいかについて、4つのグループに分かれて意見交換を行いました。

作業の進め方

- ①『リニア駅前でなにをする？カード』を作成し、イメージに近い場所（交流広場、魅力発信施設など）を指定して貼り付け
- ②作成したカードを見て、この使い方・過ごし方はいいと思うカードに『いいね！シール』を貼り付け
- ③カードに記載された使い方・過ごし方のアイデアをもとに、各グループで意見交換を実施



皆さんのアイデアを眺めて、いいね！シールを貼っていきました

◆『リニア駅前でなにをする？カード』の一部を紹介します。

誰が / いつ / どこで / どのように / 何をする
いろんな人（来訪者を含む）が / 仕事帰りに / 交流広場で / 食材と道具を持ち寄って / 焼き肉をする
東京・名古屋への通勤者が / 朝 / 高架下や魅力発信施設で / 託児所などに子どもを預けて / 出勤する
地域の方が / 4月の春祭りの際に / 交流広場や魅力発信施設で / 見物客に向けて / 獅子舞を披露する
就農希望者などが / 週末やイベント時に / 交流広場や魅力発信施設で / リニア駅前に設けられた農園で栽培したこだわりの農作物を / 販売する
地域の方が / 日常的に / 魅力発信施設内のカフェやレストランで / 食事などを楽しみながら / ゆっくり過ごす
市民が / 日常的に / 駅前空間や周囲で / 健康のために / ウォーキング・ランニングなどの運動をする



使い方・過ごし方のアイデア

『リニア駅前でなにをする？カード』や意見交換で出していただいた使い方・過ごし方のアイデアのうち主なものを「対象者（だれ）」「場所（どこ）」で整理して示します。

対象者の分類	高架上・魅力発信施設	交流広場	コミュニティ広場	その他
① 地域の人々	①カルチャースクールで学ぶ	①イベント（焼肉、マルシェなど）を開催する	①地域行事（どんど焼き・盆踊り・祭りなど）をする	◆（駐車場で）レンタカーを借りる
② 観光客	①展示会を開催する	②記念写真を撮る	①散歩・体操をする	①（全体を使って）散歩やジョギングをする
③ ビジネス来訪者	①託児所・保育園に子どもを預ける	②景色を眺望する	①親子で遊ぶ	
◆ ②③を含む	①勉強や読書をする、本を借りる	●焼き肉をする	①虫取りをする	
● ①②③を含む	①仕事をする		①農作物を栽培する	

高架上・魅力発信施設	交流広場	コミュニティ広場
①日常の買い物をする	①英語を使った案内を行う（学生）	①地域行事（どんど焼き・盆踊り・祭りなど）をする
①茶話会などで憩う	①結婚式をする	①散歩・体操をする
①勉強会やワークショップをする	②体験イベントに参加する	①親子で遊ぶ
①ダンス・バンドの練習や発表をする（学生）	③見本市・展示会を見学する	①虫取りをする
	③会議・商談をする	①農作物を栽培する
	●お茶・食事をする	
	◆観光などの地域情報を収集する	
	◆地場産品・土産などを買う	
	◆地元の食を味わう	

これらのアイデアを踏まえ、使い方・過ごし方のイメージを以下の6つに分類しました。

- ❖ 地域の方が集い、居場所となる
- ❖ 地域の「食」を楽しめる
- ❖ 地域の文化・資産を伝え、見せる
- ❖ さまざまなイベントができる
- ❖ 健康づくりができる
- ❖ 新しいライフスタイルに対応する

※本図は計画のイメージであり、決定したものではありません。

●今後の予定

第3回ワークショップの開催について

- ▶ **テーマ（予定）**
 - 広域的な連携を活かしてリニア駅周辺での提供が考えられるコンテンツ（サービス、体験など）について
 - 第2回の結果を踏まえたリニア駅前空間の使い方・過ごし方＝“コト”について
- ▶ **開催時期**
平成30年7月上旬（平日の夜を予定）

✓ 参加者募集について

開催回ごとに参加者募集を行いますので、第3回からの参加も歓迎します。（開催回数は全5回を予定しています。）
あなたもリニア駅周辺のあり方を一緒に考えませんか？



詳細は市HPや広報などでお知らせします。

基本設計への反映について

- 使い方・過ごし方を展開できる空間（平坦な広場の配置など）とする。
- デザイン・しつらえ（景観への配慮など）を反映する。

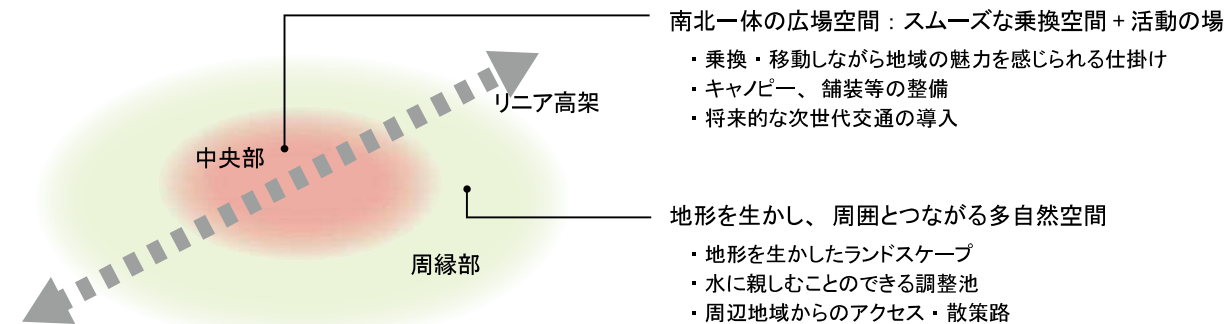
⇒次回は計画素案を提示し、具体化に向けて掘り下げた意見交換を行う予定

各種会議	議論内容	目標	設計作業
5月	5月16日：第2回WS 5月30日：学識委員会	<ul style="list-style-type: none"> 広場空間のアイデア出し 飯田リニア駅・駅前空間の考え方(案)の承認 全体の配置計画の決定 	1/500程度の模型を用いた駅前広場の空間デザインの検討 ▶ 土地の履歴の継承・WSの広場の使い方を反映 →第3回WSで提示
6月	6月11日：デザイン会議 駅前空間の方針の決定		
7月	7月12日：第3回WS	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な連携を活かした駅前提供できるコンテンツとは 使い方や過ごし方などを踏まえ、修正した計画案の議論 	駅前広場空間のブラッシュアップ検討 ▶ WSでの駅前コンテンツや広場の使い方を反映 ▶ 駅前の利用イメージを模型や平面図、イメージなどで整理 →第4回WSで提示
8月			
9月	9月20日：第4回WS 9月下旬：学識委員会	<ul style="list-style-type: none"> WSを反映した駅前の利用イメージを踏まえて、修正した計画案について議論 	(仮称)飯田リニア駅前空間デザインノート構成案 1. 飯田リニア駅・駅前空間の考え方 2. 駅前全体の空間デザイン 3. エリアごとの考え方と空間デザイン 4. 全体にかかる統一事項(議論タイミング?) 5. 伊那谷エリアの魅力発信コンテンツビジョン
10月	10月中旬：デザイン会議 駅前空間のおおまかなデザインの決定		
11月	11月：第1回市民説明会(駅前空間の考え方・大まかな空間デザインの説明) → デザインノート1・2・5の内容	<ul style="list-style-type: none"> 計画案の決定 今後の市民参加の方法のアイデア出し 来年度の進め方 	地元調整説明会等 縦覧 県協議
12月	12月中旬：第5回WS		
1月	1月中旬：学識委員会		
2月	2月中旬：デザイン会議 駅前空間のデザインの決定・デザインノート完成		
3月	3月：第2回市民説明会(デザインノートの全体の説明)		決定告示

交通と広場の共存の考え方

「交通 / 乗換動線」と「広場 / 緑地」の共存の考え方

- 風景や文化を体感することのできる駅前広場とすることで、乗り換えるだけの人にも自然と飯田・伊那谷の魅力が伝わる空間を創出する。
→改札を出て目の前に交通広場を設けるのではなく、適度な距離をとることで、移動しながら、情報を得たり買い物や体験をしたりことを可能にする。
- 同時に、地域の人々が気軽に立ち寄れる日常的な活動の場となることを目指す。



高架下・広場空間を活用したアクティビティの創出

【考え方】

- 高架下・広場空間を一体的に活用し、地域の人々の**日常的な居場所**となる空間を創出する。(※機能・規模等は検討・協議を実施)
- イベント等の開催も想定し、飯田・伊那谷ならではの**味覚や文化、体験**を提供する。
- 乗換客に対しても、風景や文化を**体感**させることで、地域の魅力が自然と伝わる空間を創り出す。



▲駅前広場・高架下空間のイベント利用（地域の祭礼）【日向市駅前広場（宮崎県日向市）】



▲高架下の滞留【くらす広場（東京都稲城市）】 ▲コンコースでのマルシェ【旭川駅（北海道旭川市）】



出典：飯田市川本喜八郎人形美術館HP



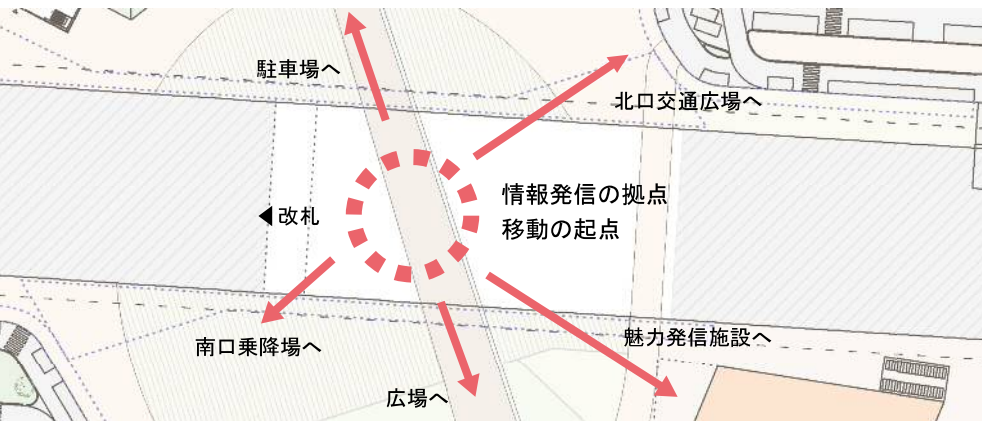
出典：広報いいだfacebook



出典：長野県観光機構HP

移動空間と広場空間の融合空間イメージ

高架下改札前空間の溜まり空間の創出・インフォメーションの設置



【考え方】

- 改札前に溜まり空間を設けて、駅前広場や飯田・伊那谷に関する**情報発信の拠点**とする。
- ここを**移動の起点**として、広場内の各施設への移動を喚起する。
- 北口交通広場への乗換動線上にも位置し、**移動しながら**様々な情報を得ることができ、**地域への関心**を創出する契機とする。

(※機能・規模等は検討・協議を実施)



▲駅前広場のインフォメーション・サイネージ【富山駅前広場（富山県富山市）】



▲高架下のインフォメーション施設（受付常駐）【新宿駅周辺（東京都新宿区）】

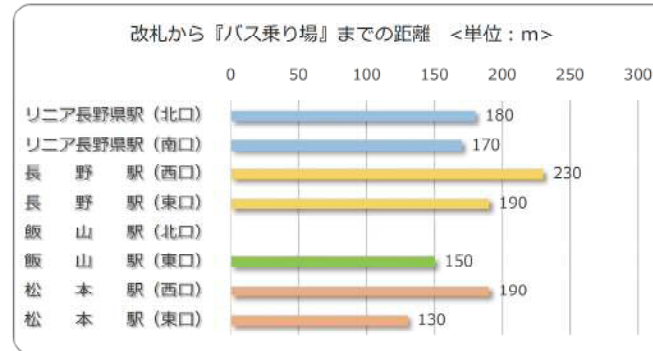
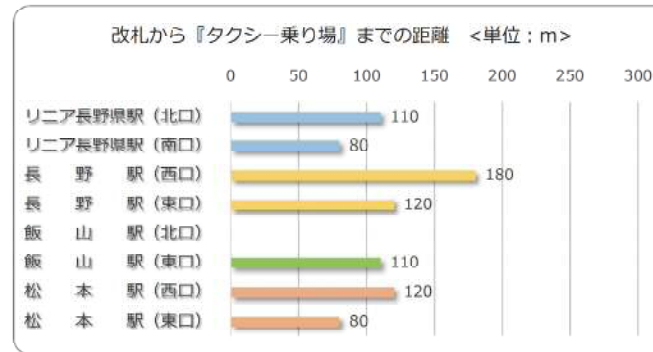


▲構造物を利用したサインの設置【敦賀駅前広場（福井県敦賀市）】

長野県内主要駅の二次交通乗換距離

二次交通の乗換距離について、リニア長野県駅と、北陸新幹線が停車する『長野駅』『飯山駅』、県内の主要な駅となる『松本駅』を比較した。

他駅との比較結果、基本設計案の移動距離については、他駅と同程度もしくは短くなる。



※タクシー・一般車は先頭車両までの距離、バスは最も遠い乗降場までの距離を示す。

ランドスケープデザインの空間イメージ

地形や水景のあるランドスケープのデザイン例



▲富士山本宮浅間大社 神田川ふれあい広場（静岡県富士宮市）



▲環水公園（富山県富山市）



▲神奈川県立津久井湖城山公園（神奈川県相模原市）

出典：神奈川県HP

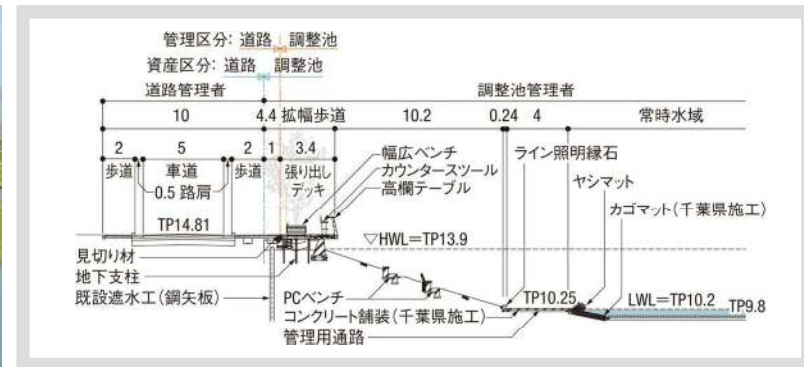


▲西郷山（東京都目黒区）

親水空間のある調整池の例



出典：itoHP



▲柏の葉アクアテラス（千葉県柏市）



▲こてはし調整池（千葉県千葉市）

出典：橋本電業社HP



▲長津川調整池（千葉県船橋市）

出典：みんなの船橋HP

新しいモビリティを活用した将来的な空間イメージ

自動運転化による人とモビリティの混在



▲小型自動バスの完全自動運転



出典：EASYMILE HP

パーソナルモビリティ・超小型モビリティの充実



出典：BBC NEWS HP



出典：RE・WORK HP



出典：Dijon Metropole Tourist Office HP



▲パーソナルモビリティ・超小型モビリティ

出典：Audi Media Center HP

1. 目的と方針

長期間かつ多くの関係者が絡むプロジェクトを適切に進めていくためには、計画・設計・施工に至る様々な段階で、立ち戻ることのできる「計画の柱」をまとめておくことが重要と考えます。

そこで、基本設計と並行し、リニア駅前の考え方や目指す空間像を、地域の人々や多くの関係者・関係機関と共有するための資料として、『(仮称)リニア駅前空間デザインノート』を作成します。

本資料は、市民向けのパンフレットにもなり、また、関係機関や将来の設計者・施工者などへの説明資料・意思伝達資料になるものを目指します。そのため、模型写真やパースなどビジュアルに配慮した資料に加え、できるだけ専門用語を用いない説明により、コンパクトでありながら、計画の考え方をきちんと伝えられる資料とします。

また、内容については、市民ワークショップ・学識者専門委員会・リニア駅周辺整備デザイン会議での議論の内容や意見を反映し、市民との協働によるリニア駅前の計画を取りまとめたものとします。

2. 構成案

(1) リニア駅・駅前空間の考え方

⇒地域やエリアの特徴や魅力も含め、テーマや設計の方針を記載【次頁参照】

(2) 駅前全体の空間デザイン

⇒テーマや設計の方針を実現するために大切にすべきことを、駅前空間の全体イメージとともに記載(今後、内容を検討)

(3) エリアごとの考え方と空間デザイン

⇒交流広場、コミュニティ施設、魅力発信施設など、それぞれの空間イメージや活動イメージ、設計において重視すべきことを記載(今後、内容を検討)

(4) 全体にかかる統一事項

⇒舗装などの素材や色彩、植栽など、駅前全体で統一する要素についての考え方を記載(今後、内容を検討)

(5) 魅力発信コンテンツのビジョン

⇒駅前空間で発信するコンテンツ(サービス、体験など)の内容、対象者などの考え方を記載(今後、内容を検討)

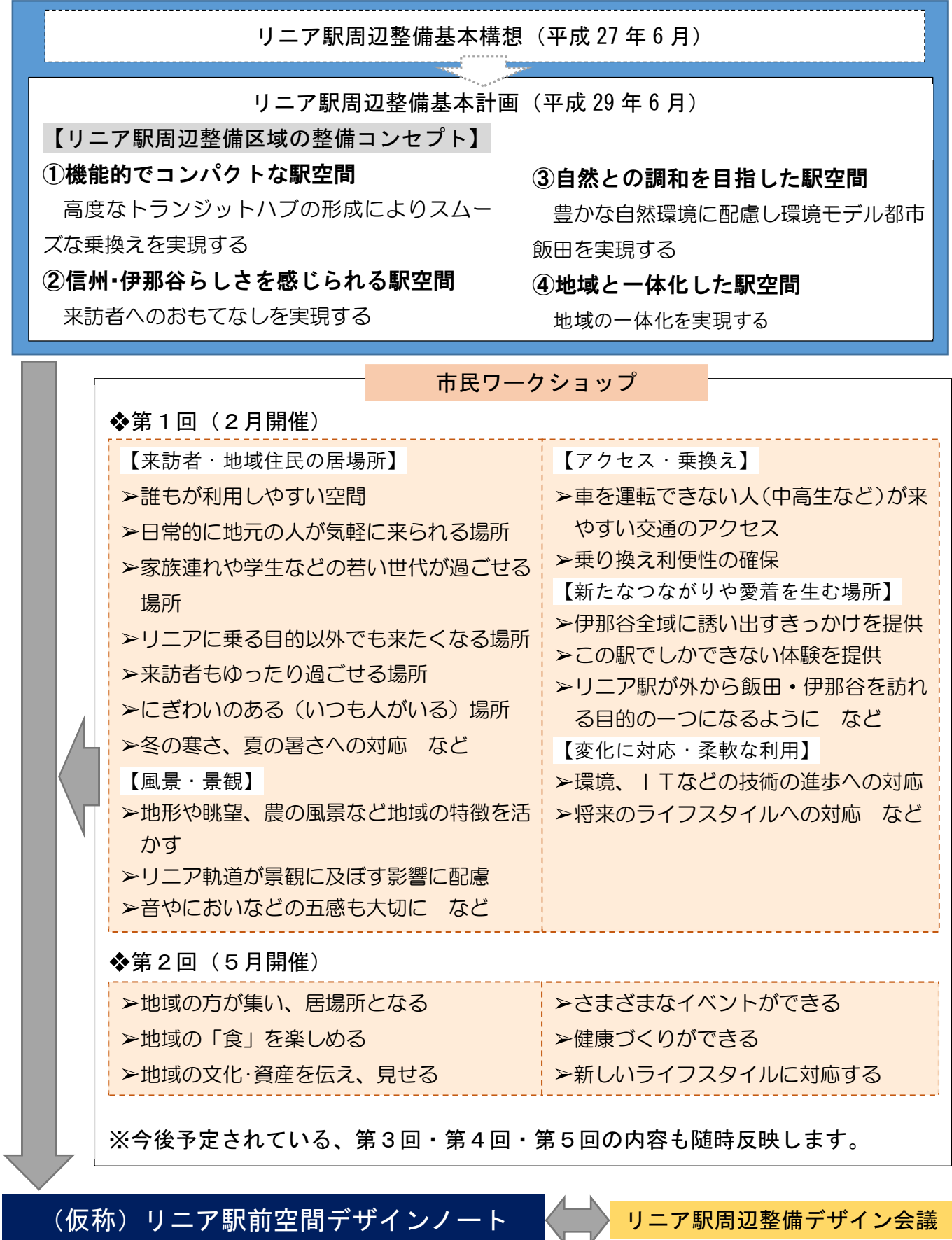
3. 「(1) リニア駅・駅前空間の考え方」について

本デザインノートの根幹となるものであり、「テーマ」と「設計の方針」で構成しています。

検討にあたっては、リニア駅周辺整備基本構想(平成27年6月)に基づいて策定した「リニア駅周辺整備基本計画(平成29年6月)」を踏まえています。また、市民ワークショップでの議論の成果を盛り込んでいます。

なお、記載内容については、今後の検討や市民ワークショップの進捗に伴って随時更新を図ることとします。

■ (仮称) リニア駅前空間デザインノート検討の流れ【イメージ】



【テーマ（案）】

『 結 い の 広 場 』

- 「トランジット機能」（乗換え）と「にぎわい・交流機能」（人と人・モノ・体験・地域などを結びつける）を両立する広場とします。
- この地域で営みを続ける人々の暮らしへのアクセントとなり、地域固有の風景などから信州・伊那谷を感じられるような広場とします。

【整備コンセプトを実現するために大切にすべきこと（設計の方針）】

1) アクセスやバリアフリーに優れた交通環境 ……基本計画のコンセプト①・④に対応

- ・南北一体の広場に接するように、高速バスや観光バスも停車できる北口交通広場と、地域の人々が使いやすい南口乗降場を設け、高度なトランジットを実現します。
- ・改札から平坦な道を歩いて乗り換えができるよう、バリアフリーに配慮した交通環境とします。
- ・車の利用者が乗り換えやすい駐車場を設けます。
- ・学生や高齢者など車に乗らない人たちが利用する公共交通などのアクセスに配慮します。

2) 地域住民や来訪者の居場所となり、豊かな時間を過ごせる駅前空間

……基本計画のコンセプト①・④に対応

- ・駅の中心に南北をつなぐ広場を設け、それを囲むように交通広場や魅力発信・生活利便機能を備えた施設を配置することで、駅を中心とした人が主役の緑とにぎわいの広場をつくります。
- ・お茶や買い物を楽しんだり、地元の食材やお酒を味わったり、家族でのんびり過ごしたり、散歩で立ち寄りたり、健康づくりをしたり、学生が課外活動をしたり、様々なイベントで盛り上がるなど、リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場空間は、大小様々な使い方ができ、冬の寒さや夏の暑さにも配慮した居心地の良い空間とします。
- ・地域の伝統文化の継承や地域のコミュニティの絆を高める空間とします。

3) 伊那谷の風景に溶け込み、その魅力を引き出す駅前空間

……基本計画のコンセプト②・③に対応

- ・天竜川に向かって傾斜する地形や豊かな用水の流れ、南アルプスや伊那山地への眺望や多様な生態系といった地域の特徴を活かし、駅を出た瞬間から伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と合わせ、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・周囲の風景と広場のデザインの調和に配慮します。

4) 様々な人のつながりと、伊那谷全域へと誘い出すきっかけをつくる駅前空間

……基本計画のコンセプト②・④に対応

- ・来訪者と地域住民といった人と人の出会いや、来訪者と地場産品といった人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・長野県全域や伊那谷周辺の魅力的なエリアやお店、アクティビティを伝える情報提供など、長野県や伊那谷全域へ誘い出すきっかけをつくります。
- ・近隣住民の生活環境を守りつつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、敷地内だけでなく周辺地域との回遊性を確保します。
- ・将来の運営者・事業者が持続的で様々なニーズに対応した使い方ができる空間とします。

5) 時代を先取りし、変化に対応できる計画 ……基本計画のコンセプト①・③・④に対応

- ・限られた土地を有効活用するために、平常時とイベント時のように曜日や時間によって、さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティといった発展目覚ましい技術や、エネルギー、ライフスタイルの変化など社会のニーズにも対応できるようにします。
- ・グリーンインフラ（自然の多様な機能を活用したインフラ）を積極的に用い、環境に優しく、災害にも強い空間をつくります。



■第2回リニア駅周辺整備デザイン会議における意見対応

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
機能・運営	駅の機能としての一番大事な部分をしっかり押さえた上でつくっていく必要がある。イメージを明確にすることが必要だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> デザインノートに記載してある「トランジットと、にぎわい・交流」をテーマに、基本設計を進めることとしています。 よりイメージが共有できるよう、現在、模型(1/300)を作成していますので、次回のデザイン会議に提示させて頂く予定です。
	駅が多様な機能を持つ必要があるのではないか。情報発信できる場所、休憩スペース、食事スペース、子どもから高齢者までの休憩スペース等を、どのように配置するかが重要な要素だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 運営管理の方法についても、今年度から具体調査に着手する予定ですので、WSの結果も含めて、市民や事業者等からの意見も踏まえながら設計を進めます。 障害者団体等にも意見を聞きながら設計を進めます。
	事業主体は一体誰なのか。維持管理を行う上で、どういう収入があって、その事業収入でこの広大なエリアをどう運営するのか。	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場を含め、施設の運営管理の方法についても、今年度から具体調査に着手する予定です。
	高度なトランジットハブというところと、ここをどうやってにぎわいを持つかというところの調整が一番大事だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> WSでも同様の意見を頂いており、デザインノートに記載してあるよう「トランジットと、にぎわい・交流」をテーマに、基本設計を進めることとしています。
乗換環境	駐車場や広場的なものが多い。コミュニティ広場についてはありがたいが、スピーディーに乗り換えられるところとの関連がどうなっているのか。	<ul style="list-style-type: none"> 基本設計案も含めて、今回の資料に乗換距離を示してありますが、長野駅等の他の駅と比べても同等もしくは、短くなる計画です。また、高架下空間には、移動しながら情報を得ることや、買い物や体験ができるよう検討を進めています。
	地域内の二次交通が大事になってくるので、その部分の検討と調整が必要だと思う。	<ul style="list-style-type: none"> 長野県が「リニア中央新幹線長野県駅とのアクセス(二次交通)に係る調査」を実施していますので、当該調査結果を活用しながら、基本設計に反映していきます。
	降りた人はどこへ行くのか。逆に、車で乗り付けた人はどう動くかホームへ上がるのか。この動線がわかるようにしていただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の資料に移動手段別の移動動線を示しています。また、改札から駅ホームまでの移動については、JR東海で検討をされています。
	JRの乗り換え新駅までの人の動線はどうなるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 今回の資料に記載のとおり、北口の交流広場から県道市場桜町線を通り、新駅までの動線を確保する計画ですが、具体内容については、JR東海と継続して協議を行っていきます。
交通計画	国道153号を右折し、座光寺上郷道路から北口の駐車場に入るところをスムーズにできるか確認が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 学識者専門会議における指導も頂きながら交通シミュレーションを実施しています。結果として、土曾川横断道路の設置したことにより、基本計画時より渋滞が軽減されることとなります。
	将来的に交通量が多くなるのではないかと考えており、信号がどのくらいあるかわからないが、アクセスが本当にこのままの状態ですmoothなのか心配である。	<ul style="list-style-type: none"> 警察協議を進めています。信号設置箇所は、図示のとおり5箇所を予定しています。

項目	主なご意見(当日の課題)	取組方針
駐車場	図面を見たときに、駐車場が多いと感じた。駐車場をどう隠すか、何かデザインしながら隠すということが必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> 北口駐車場(パーク&ライド駐車場)の一部について多目的に利用できるように配慮するほか、緑化等を含めて、WSを実施しながら景観デザインを検討していきます。
	北口のパーク&ライドの駐車場の県道寄りの位置について、どれぐらいのところに建つのか。	<ul style="list-style-type: none"> WSの結果も踏まえ、現在、模型(1/300)を作成していますので、次回のデザイン会議に提示させて頂く予定です。 計画高としては、県道市場桜町線と北側進入路との交差点高が約444m、立体駐車場の1階部が約439m、2階部が約442m、屋上部が約445~446mとして設計を進めています。
	駐車場の可変性とは、どのような考えか。	<ul style="list-style-type: none"> 北口駐車場(パーク&ライド駐車場)の一部について多目的に利用できるように配慮しています。また、駐車場の運営管理の方法についても、今年度から具体調査に着手する予定です。
排水・調整池	雨水排水の問題、土曾川との関係について、地元の要望等も加味しながら、検討して欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> 雨水排水、調整池等について、今後、地域の方々と協議を行い、更に設計を進めながら、長野県飯田建設事務所と調整をしていきます。
	土曾川が近いため、河川から見たときの安全性について、若干懸念される面もあるので、検討いただくときはその辺の配慮もお願いしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 飯田市ハザードマップ上、リニア駅周辺における土曾川は、河川の浸水想定区域ではない位置づけですが、安全に配慮し、設計を進めています。 雨水排水、調整池等について、今後、地域の方々と協議を行い、更に設計を進めながら、長野県飯田建設事務所と調整をしていきます。

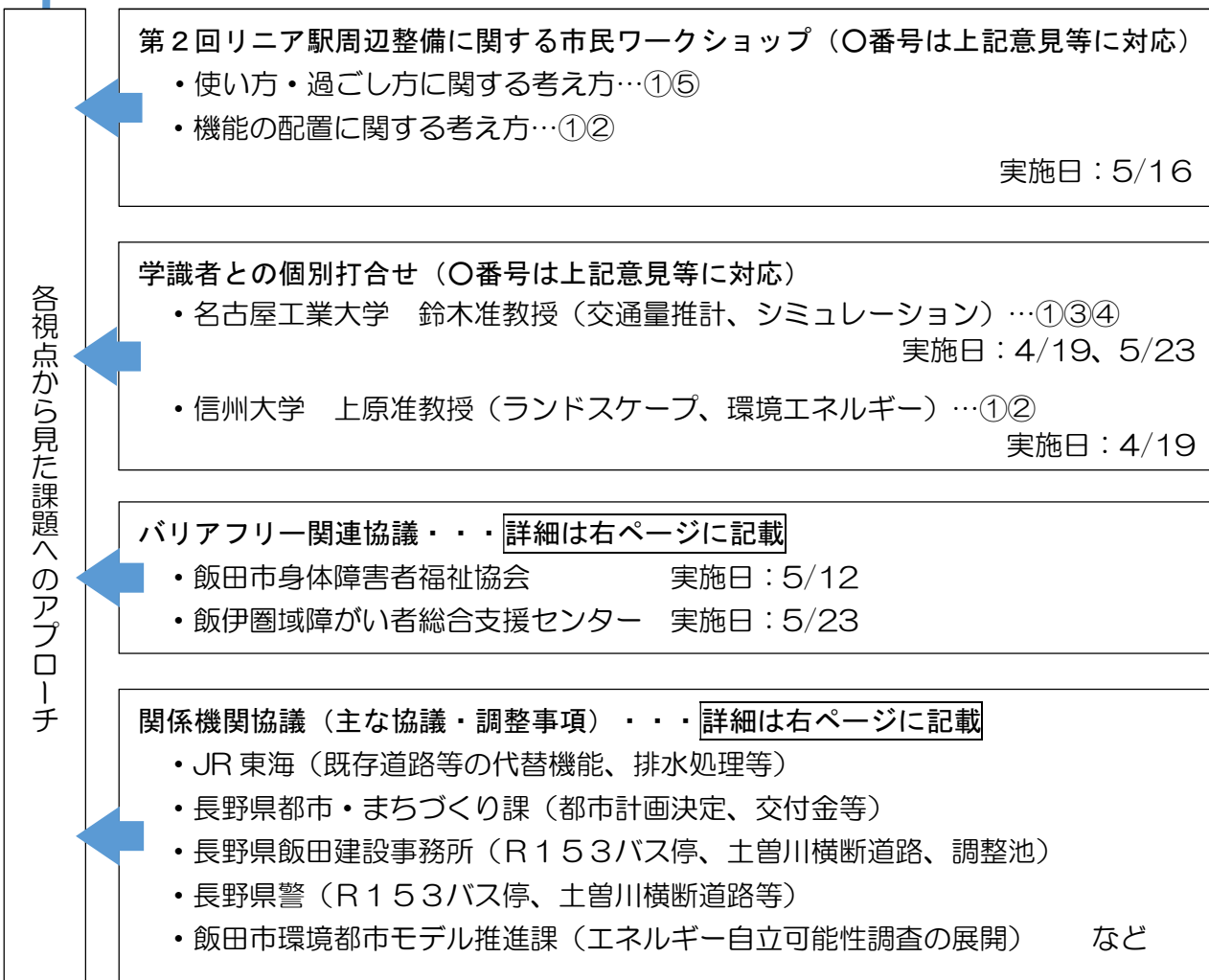
※学識者からの意見については、別途、学識者専門会議、個別協議にて実施していますので省略しています。

第2回リニア駅周辺整備デザイン会議以降の経過報告

第2回リニア駅周辺整備デザイン会議 (3/23 開催)

【主な意見・課題等】

- ①交通処理（トランジットハブ）と地域ニーズ（にぎわい・交流の機能）が両立できる駅周辺整備とする必要がある。
- ②駅が持つべき機能の中には休憩等もあり、多様な機能（地域の情報発信、食事、子ども、お年寄りのための機能など）が必要である。
- ③動線の考え方を分かりやすく伝えることが必要である。
- ④道路ネットワークや二次交通などの外とのつながりの整理が必要である。
- ⑤観光客だけでなく、ビジネスでの来訪者の視点も重要である。 等



第6回学識者専門委員会 (5/30)

- ・交通処理計画
- ・再生可能エネルギーの活用等
- ・空間の利活用方針（デザインノート） 等

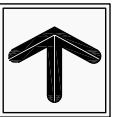
第3回リニア駅周辺整備デザイン会議 (6/11)

関係機関協議等の状況

関係機関	実施日	調整事項	結果概要
J R 東海	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ○コンコースの高さについて ○コンコースの高さに関するJ Rの要望について ○駅構内・外の構造について 	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市利用エリア、コンコースは437mにすることは可能だが、なるべく嵩上量を下げしてほしい。 ・高架下が浸水しないよう排水勾配をつけてほしい。 ・荷捌きスペースへの進入経路を確保したい要望。 ・コンコースの位置を確認。
	5月10日	<ul style="list-style-type: none"> ○道路及び水路の付替え計画について ○排水処理について ○市による高架下の利用について 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画決定に向けて市道及び用水路の付替え案を市と協議予定。 ・リニア高架部の雨水排水について市と継続協議を予定。
長野県 都市・まちづくり課	3月28日 4月13日 5月7日	<ul style="list-style-type: none"> ○駅周辺の都市計画決定について ○社会資本整備総合交付金について 	<ul style="list-style-type: none"> ・6.5haから東西道路、魅力発信施設を除いた区域を一体で都市計画決定を行う方針を確認。 ・社会資本整備総合交付金を活用しながら事業実施することを確認。
長野県 飯田建設事務所	4月23日	○調整池について	<ul style="list-style-type: none"> ・流域、雨水流出量、調整池容量、計算方法の考え方について了承。 ・調整池及び流末の位置について決定後、再協議予定。
長野県 飯田建設事務所	6月11日以降予定	<ul style="list-style-type: none"> ○土曾川横断道路について ○南口路線バスのバス停について 	<ul style="list-style-type: none"> ・6/11デザイン会議後に協議すると回答。
・飯田市身体障害者福祉協会 ・飯伊圏域障がい者総合支援センター	5月12日 5月23日	○バリアフリー、ユニバーサルデザイン対応について	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計の案が断然よいとの意見。段差を極力なくした施設整備にして欲しいとの要望有り。 ・6月末～7月初旬に意見等をまとめて回答を頂く予定。
長野県警察本部 交通規制課	5月14日	<ul style="list-style-type: none"> ○土曾川横断道路について ○南口路線バスのバス停について 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曾川横断道路により、交通量の多い座光寺上郷道路と国道153号の交通が分散されるため、交通の円滑化が図れると回答。 ・南口の国道沿いの路線バスについて計画の見直しを求める意見は無し。
飯田市環境エネルギー 都市推進課	4月26日	○地区内等へのエネルギー導入について	<ul style="list-style-type: none"> ・木質バイオマス等により、地区内等で必要となるエネルギーが供給可能である調査結果を踏まえ、今後、継続協議を確認。

造成高（北側）に関する資料

基本設計検討案


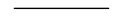




S=1:1000 (A3)

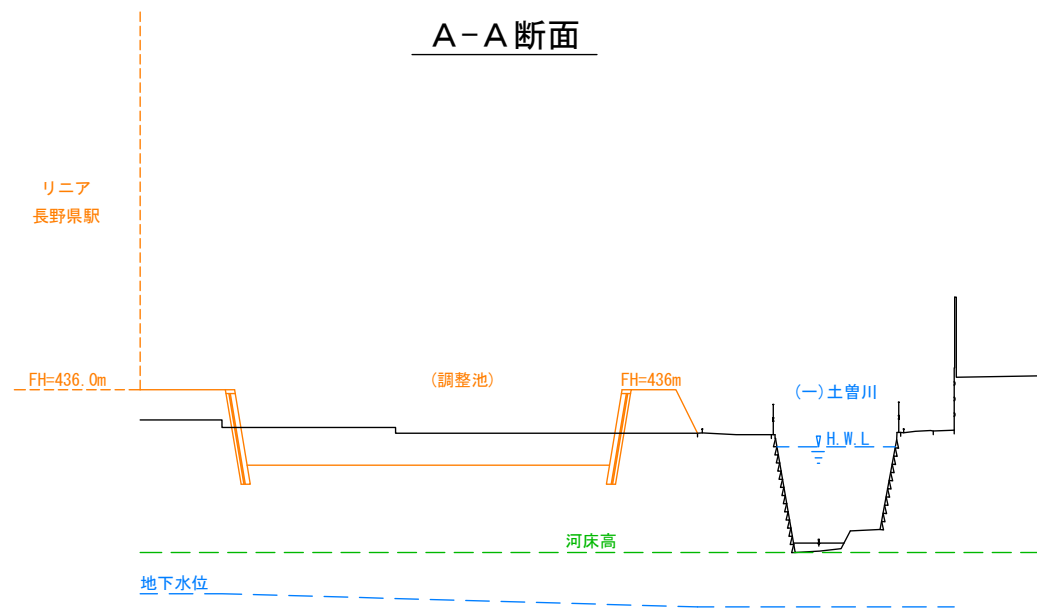


造成横断面

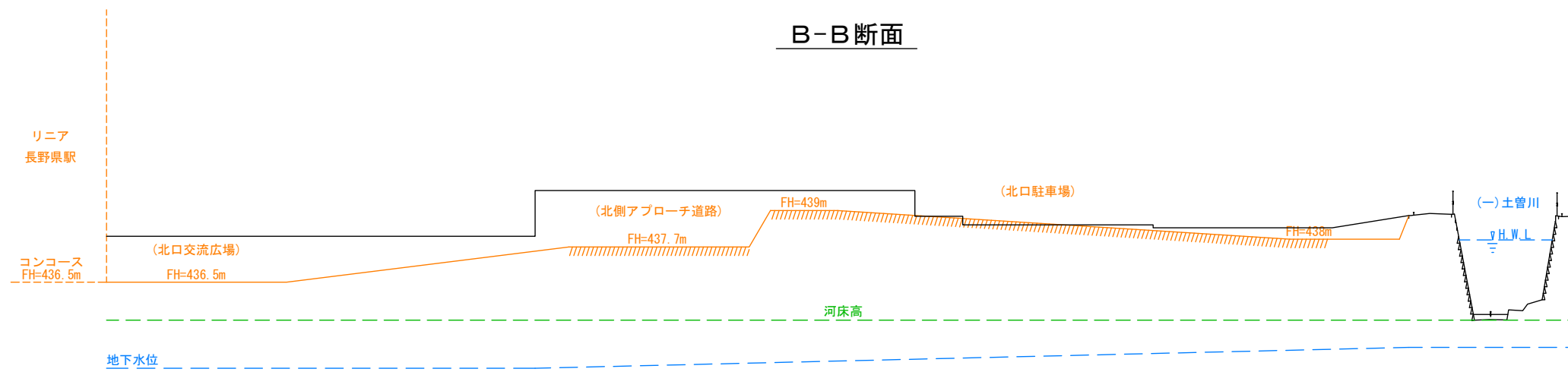
V=1:200 (A3), H=1:600 (A3)

凡 例	
	基本設計検討案
	現況地形
	河床高
	地下水位

A-A断面



B-B断面



C-C断面

